

分野	荒廃山地の復旧等の治山			事業番号	4	事業名	山地治山 (予防治山)			
市町村名	長和町	ふりがな 箇所名	おおたきわ 大多沢		事業年度 (完了年度は見込み)	H24 年度 ~ H26 年度				
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	山腹工 0.20ha(落石固定工 2,000㎡)				H23年度末事業進捗率	- %			
	H24年度以降実施内容	同上				本工事費等ベース	- %			
	H24年度実施内容	山腹工 0.06ha(落石固定工 600㎡)				用地補償費ベース	- %			
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降残				
財源内訳	事業費計(千円)	60,000			20,000	60,000				
	国庫支出金	30,000			10,000	30,000				
	その他									
	県債	27,000			9,000	27,000				
	一般財源	3,000			1,000	3,000				
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価			ランク	評点	
	必要性 (20)	保全対象人家	10戸以上	1~9戸	0戸	B	0			
		保全対象公共施設	2箇所以上	1箇所	なし		5			
		保全対象に災害時要援護者関連施設があるか	重要施設	一般施設	なし		0			
		保全対象(保安林・林業用施設)	「広域基幹林道」又は利用区域500ha以上の林道又は保安林率50%以上	保安林率30%以上50未満又は流域対策上保全すべき森林あり	保安林率30%未満		7			
		小計					12			
	重要性 (15)	過去の災害履歴	過去5年に1回以上	災害履歴地	なし	C	5			
		交通遮断による地域経済などへの影響	大	中	小		1			
		防災計画上の位置づけ	あり	なし			0			
		小計					6			
	効率性 (20)	費用対効果(B/C)	B/C2.0以上	B/C1.0以上2.0未満	B/C1.0未満	A	10			
		早期発現度	3年未満	3年以上5年未満	5年以上		5			
		流域の総合調整	あり	なし			0			
		小計					15			
	緊急性 (25)	最寄の保全対象までの距離	50m未満	50m以上200m未満	200m以上	B	7			
		地形、地質の状況	火山噴出物、花岡岩、第3紀層、破碎帯かつ地すべり地形	火山噴出物、花岡岩、第3紀層、破碎帯	その他		2			
		平均溪床勾配(平均山腹勾配)	10°以上(30°以上)	5°~10°未満(20~30°未満)	5°未満(20°未満)		3			
		下流の堰堤等の整備状況(他所管含む)	なし	あり(概ね満砂)	あり(ポケットあり)		5			
		危険地区危険度	Aランク	Bランク	Cランク		なし	0		
		小計					17			
計画熟度 (20)	地域からの要望	地域住民活動強い	市町村要望有り	特に要望ない	B	7				
	事業情報の共有	関係者以外にも周知	関係者中心に周知	特に周知していない		0				
	住民参加の状況	住民が直接参加	住民市町村意見を反映	住民意見反映していない		3				
	小計					10				
費用対効果(B/C)		1.34	評価の合計			B	60			
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	林道大門和田線は、旧長門町、和田村間で、S45年から各開設工事を行い、S57年に連絡線形となり現在に至っている。林業利用はもとより相互間の連絡用道路として利用されている。当該区域は、大正12年に保安林指定を経て、当時山腹の崩壊、落石対策としての空石積による山腹工が複数あり、保安林としての機能を維持してきた。平成22年3月23日に凍結融解による地盤の緩みから、露岩の剥離で林道へ落石した。中腹にはまだ危険な状態の転石、露頭があり、放置すれば通行車輛への被害は大きい。								
	地域からの要望経緯	平成22年3月の落石発生時に長和町と地元 経塚区からの対策要望がある。								
	事業説明等の経緯	事業採択後、事業説明。								
	環境・景観への配慮項目	保安林内であり、立木の伐採を最小限に抑えた工法で落石対策を行う。								
	他事業・プロジェクトとの関連	長和町で町内の防災体制の見直しを行っており、集落間の連絡道路としての林道大門和田線の役割を重視している。								
特記事項	地元 経塚区が現地調査を行い、町役場を通じて事業実施を要望した。									
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他					
部意見	平成22年の融雪期に落石が発生しており、上部発生源には亀裂の発達した不安定な岩塊が存在している。下方には生活道路としても利用されている林道があることから、対策を図る必要がある。			政策評価課意見	落石対策の必要性は認められる。					